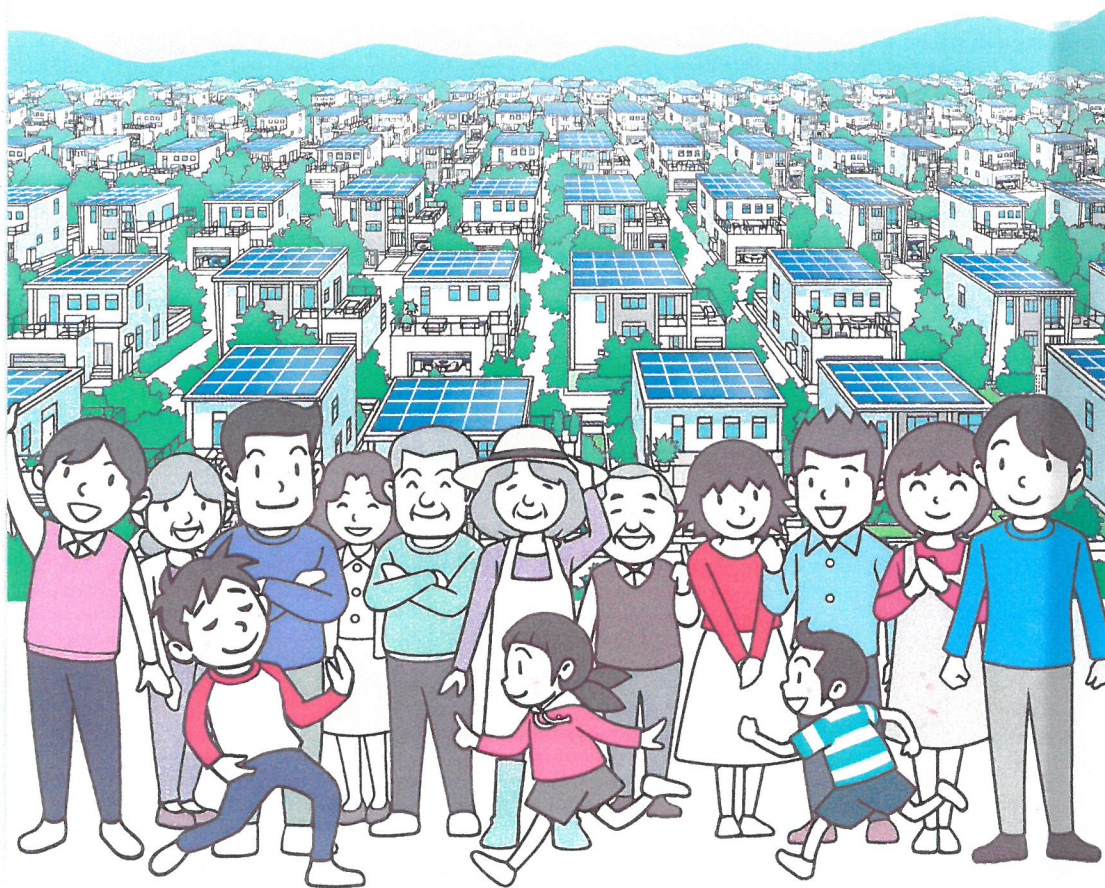


まんがで
わかる

ニューノーマル時代に対応する

スマートハウスは どうですか？



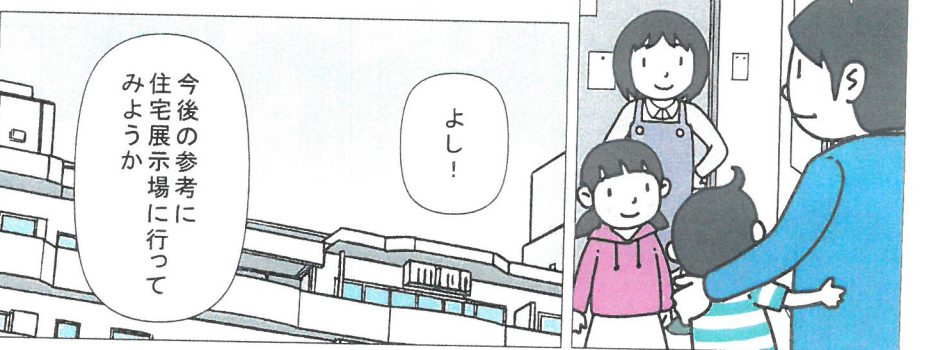
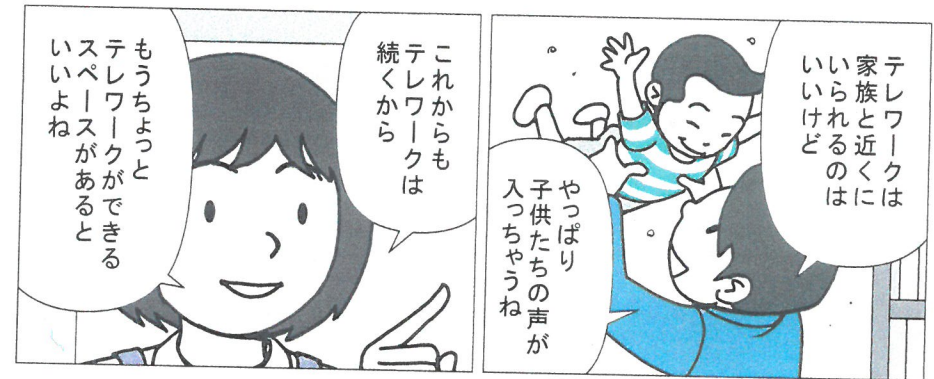
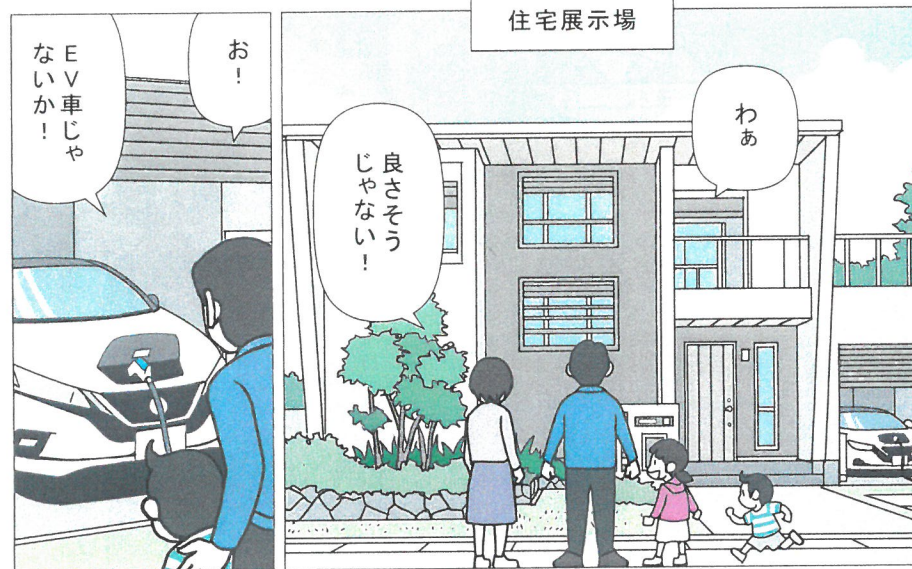
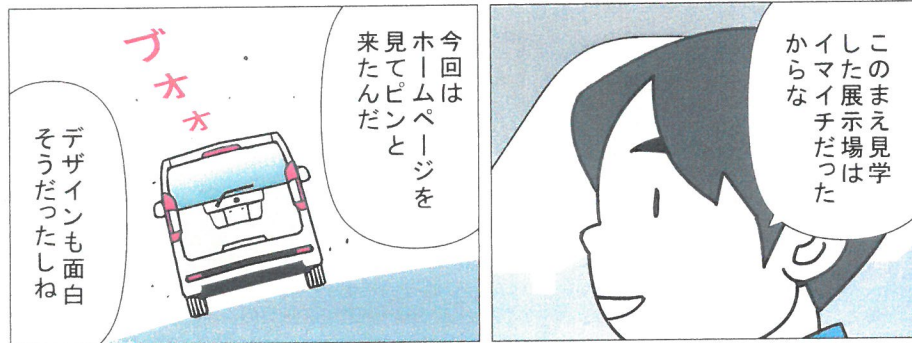
Smart2030零和の家®

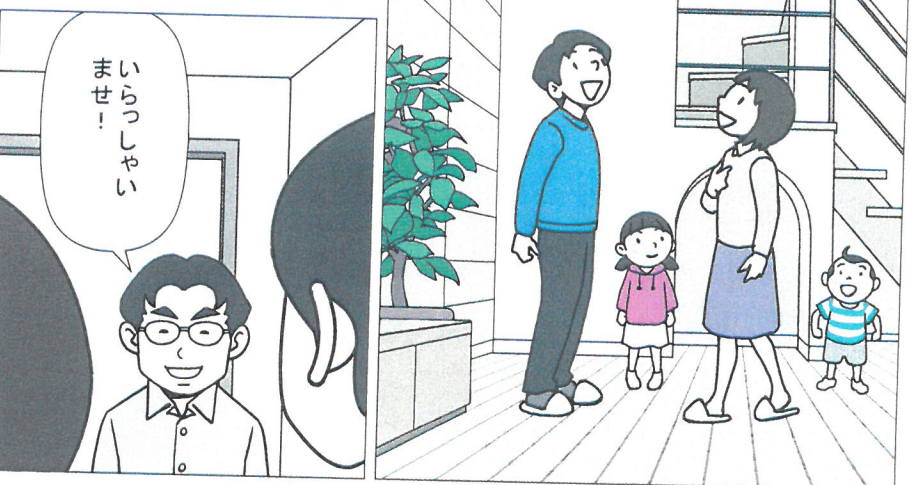
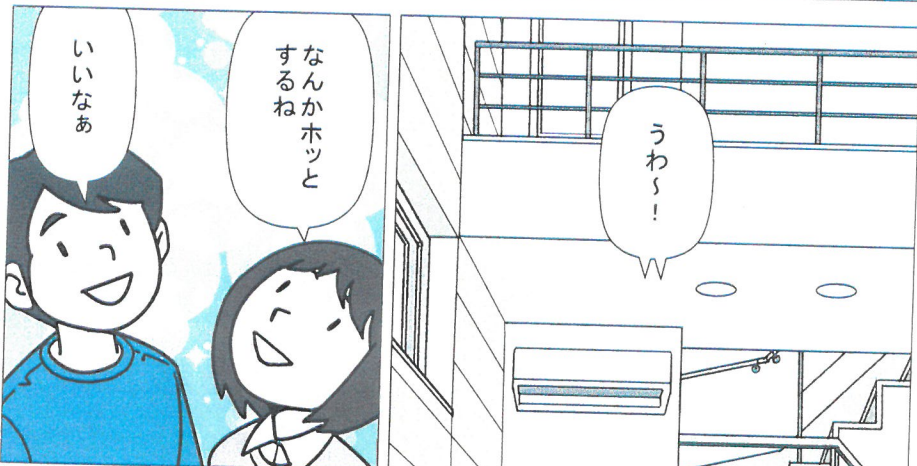
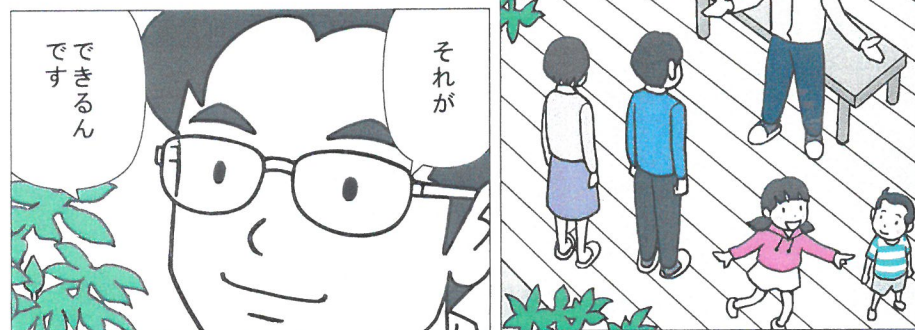


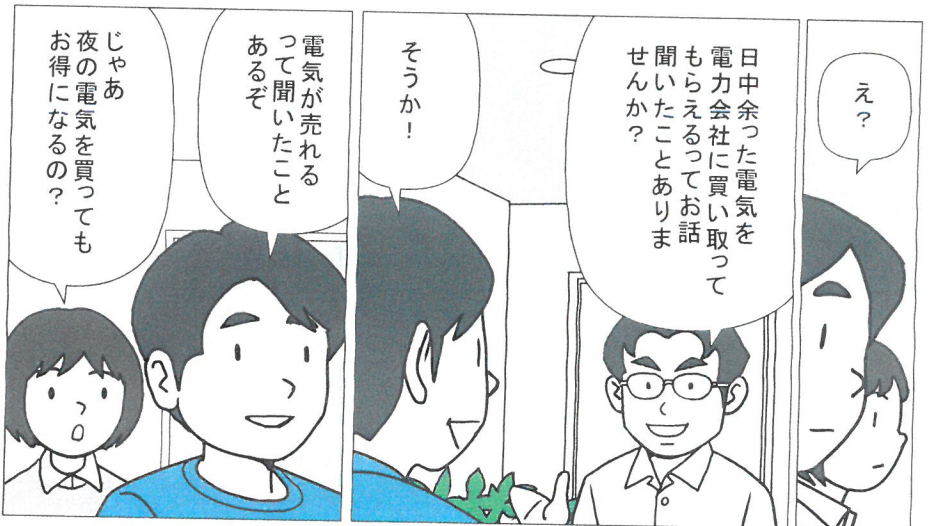
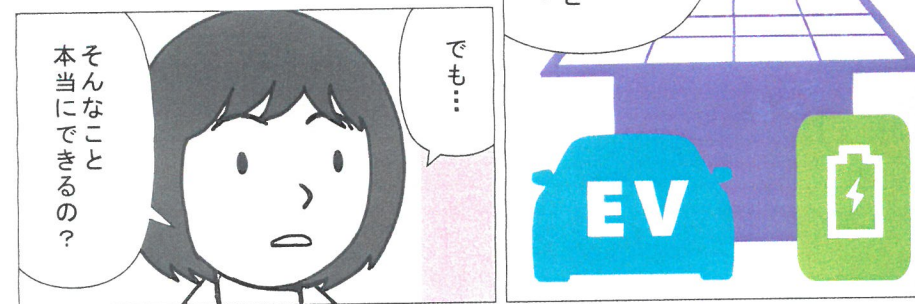
Smart2030零和の家®

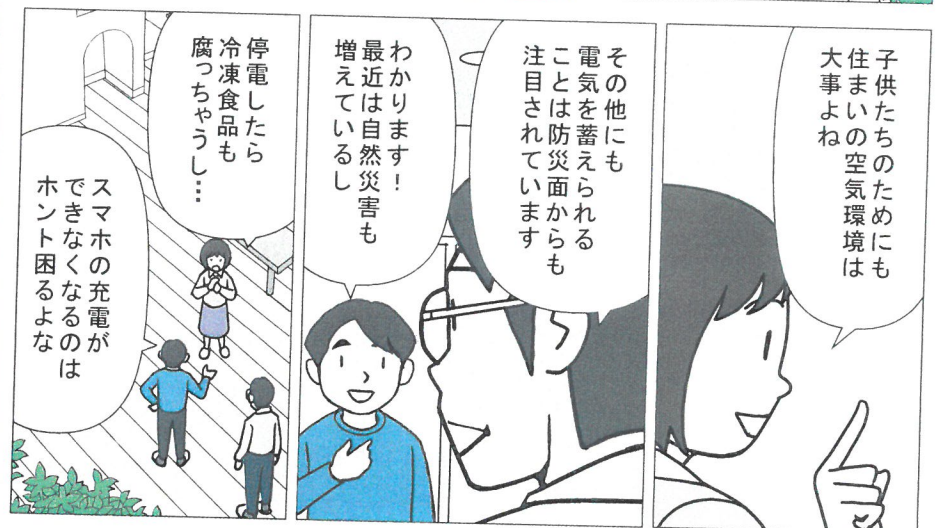
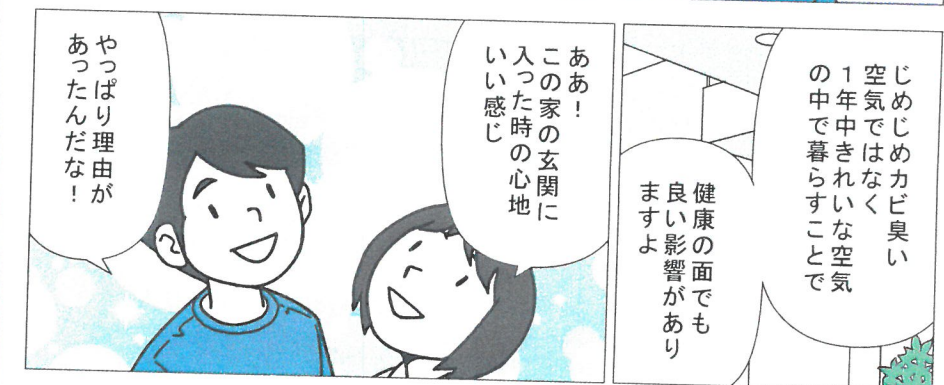
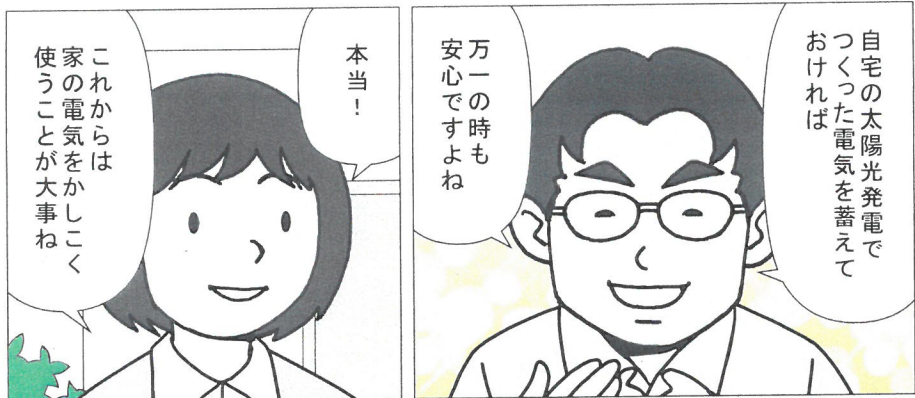
私たちが提案する 家づくり5つの約束。

- PROMISE ★ 健康を第一に考えた家づくり
- PROMISE ★ 省エネを超えるエネルギー自給率100%を目指す
- PROMISE ★ 地震・災害から家族の命を守る
- PROMISE ★ 急変するエネルギー事情へ対応する
- PROMISE ★ 家の資産価値を担保する









✓ 自然災害など、非常時でも暮らせる家

電気を常に自給自足している住宅の大きなメリットは、自然災害などが発生した時にも変わらずに電気の供給ができることです。



昨今の異常気象により台風や大雨といった自然災害が増えています。広い地域で停電が起きたり、住まいが浸水したり、これまで被害を受けていなかった地域でも、今後

は災害に巻き込まれる可能性が高まっています。これからは、住宅自体が自然災害のような非常時にも対応できるようにしておくことが重要です。

例えば、「災害予報連動HEMS」は、長雨警報が発令されるとAによる予測をもとに非常時の体制で給電をコントロールします。また、一定量の水を貯水できる「非常用給水タンク」を設置しておく、断水した場合でもタンクの水を飲料水や生活用水として利用することが可能になります。他にも、暴風雨や飛来物から家を守る「防風外付けブラインド」の設置や、筋交いの役割も果たす「堅牢トリプル樹脂窓」の採用など、住宅そのものを災害から守るための設備も必要です。

災害時、各市町村でも避難所を設置しますが、密状態になりやすく、クラスター発生のリスクもあります。こうした事態を踏まえると、いざという時に自宅を避難所として利用できるよう、平時から備えておくことが大切でしょう。

CASE2
エコなスマートライフを夫婦で実現

